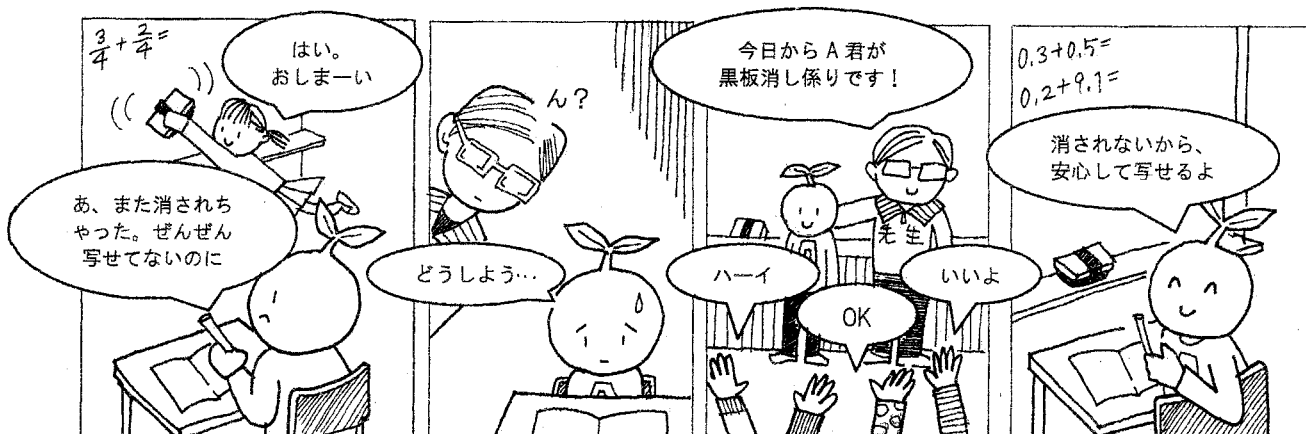


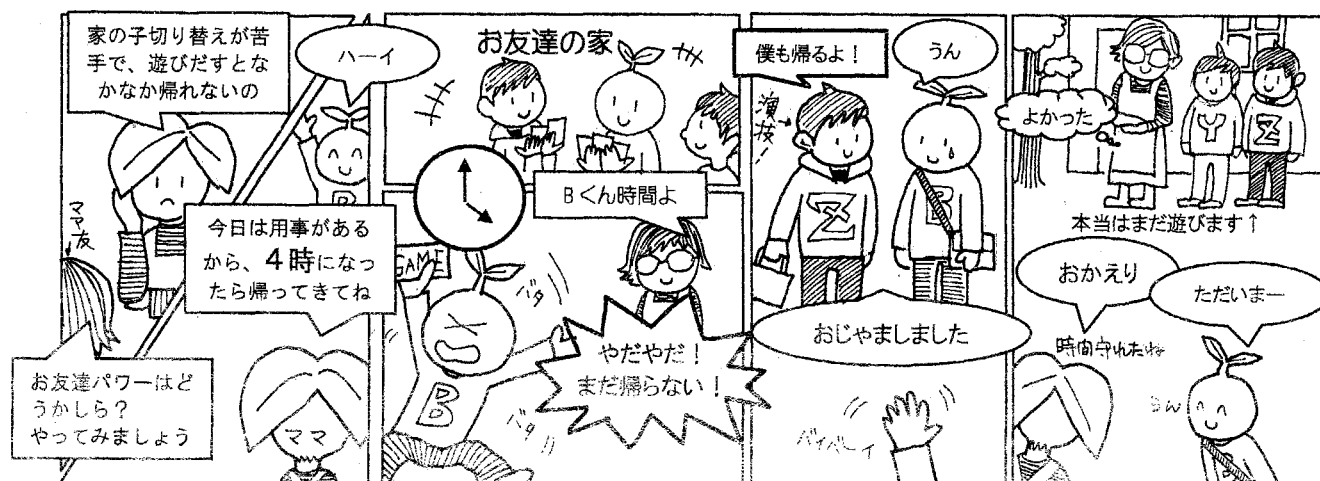
みなさんこんにちは(^ ^) 前回のリーブスで「合理的配慮」についてお話したのを覚えていますか？これまで、配慮していただけたことがなかったのかと言うとそうではありません。日々、すべての子供達と向き合い、試行錯誤しながらも気づいたこと、出来ることを考え、配慮をしてくださる先生方はたくさんいらっしゃいます。そして、先生だけでなく、保護者の方のご協力も…今回は、そんな先生方や保護者の方にしていただいたご配慮を、ほんの少しお伝えしたいと思います。

気づいてくれた わかってくれた

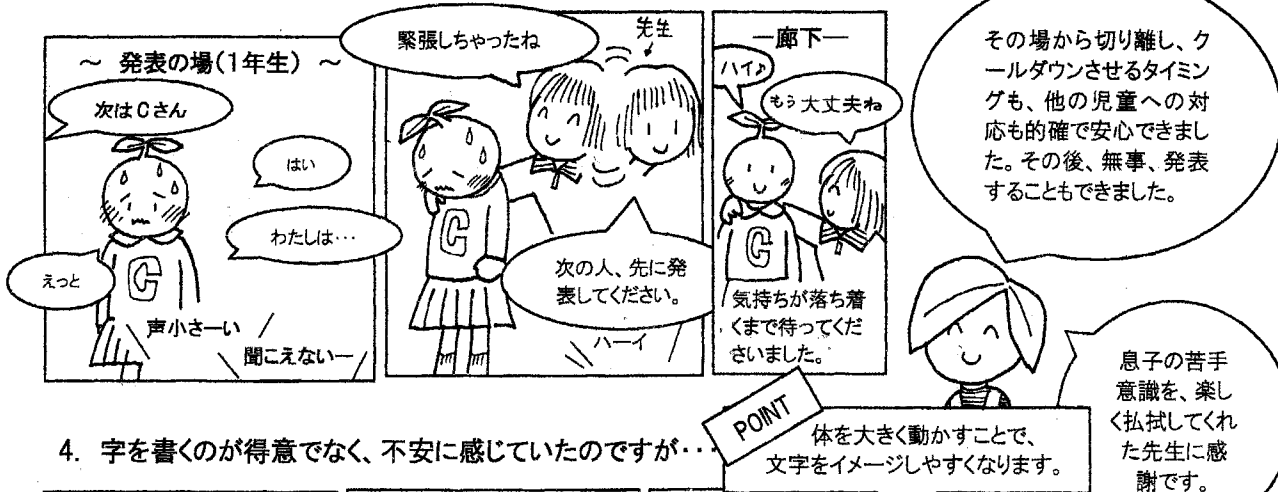
1. 文字を書くのが苦手でいつも黒板消し係りに消されてしまい、最後までノートが写せませんでしたが…



2. 気持ちの切り替えが苦手で、お友達と遊んでいて、自分だけ途中で帰ることが毎回なかなか出来ませんでした…



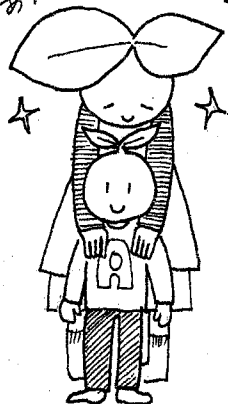
3. 人前で話すことや、自分の声の大きさを調整するのが苦手でした・・・



4. 字を書くのが得意でなく、不安に感じていたのですが・・・



ありがとうございました



学校の中の困難は、親ではどうすることも出来ず、どこまで先生にお願いして良いのかもわからないで困ることが多いのですが・・・担任の先生がこんなふうに気づき、同じ目線で考え、ご配慮いただけたことは本当に救われました。出来る環境を整え、出来たという経験をつませていただいてありがとうございます。たくさんの児童がいる中、特別と誤解されないようご配慮いただけて本当に助かりました。

編集後記

昨年末に、エコルマホールで開催された「東田 直樹」さんの講演会に行ってきました。

東田さんは、重度の自閉症者でありながら作家であり、現在世界中で著書が翻訳され、各国でベストセラーになるなど注目されている方です。講演会はとても有意義なものでしたが、その中で東田さんがおっしゃられていた「出来ないことが辛いのではない。出来ないことをわかってもらえない事が辛いのです。」との言葉が印象的でした。その言葉を忘れずに子供に接していきたいと思ひます。